

# 東海地区 現代俳句協会 会報

第 80 号  
令和 6 年 3 月 31 日  
東 海 地 区  
現 代 俳 句 協 会

## 俳句と自然体験

NPO 法人 大杉谷自然学校 校長

大 西 かおり

大杉谷自然学校の大西かおりと申します。私も俳句をたしなみ漢字の可能な可に織ると書いて、可織が私の俳号です。自然観、人生観を通して、この共通性がないと同じ芸術を味わうことが出来ないかと危惧し、本日のタイトルに致しました。

人口減で廃校となった大杉小学校にて、二〇〇一年に大杉谷自然学校を設立致しました。プログラム、場所、指導者を年間を通じて提供できる組織です。自然と人間が共生する持続可能な社会作りの貢献が目的です。此処で学ぶことは、昔、地域や学校とか家庭で、身近にできることばかりだったんです。私たちは「究極の目的っていうのは自然学校がなくなる社会を目指す。」と言っていますが、いまは年間に百二十件の自然体験を、名古屋を含め三千人程の方々に提供しています。

自然学校のメインは環境教育事業です。

子供たちが間伐をして、木の皮を剥き乾燥させて、山から降ろして長さを揃えて、トラックに乗せて出荷します。市場で売ってお金を儲けて、それを使うところまでが授業です。自分で売ってお金を稼げる「やつた」って感じですよ。

みんなが好きな十種の遊びを紹介させて頂きます。まずは水遊び。きれいな川で泳いだり滝を登ったり。二つ目が火遊び、お風呂を薪で炊く、鮎を炭火で焼く、竈でご飯を炊く、人類の本能なんでしょうね。鮎のつかみ取りに、大きなハサミを持った藻屑ガニ、指を挟まれたらとドキドキしながら追っかける。此れが大事です。料理を作り食べる。そして冒険、挑戦、木登り、あと暗闇とかね。今はこれらが出来る環境が少ないんです。創意工夫が絶対に必要な物作り。秘密基地づくり。さらに競争ですね。子供達、棒みたら振り回す、本能的にある

のかなあ。人類の進化の過程で戦いのない時代が果たしてあったのか。しかし文明も文化も進化して、私たち自身も成熟する中で、平和を作るってなんか希望だと思えます。そして綺麗なものを集める。最後は気の合う友達と一緒に過ごす。色々なところへ体験に出掛けて、一番面白かったのはバスの中だったって、大事な時間です。

私たちの社会は凄く便利になりましたが、便利さが奪った大事なものが多々あります。創意工夫とか時間をかけるとか、子供達考えながら取り組むことがすごく苦手です。考えて時間をかけて何かに取り組む事、これから無理矢理にでも作らないと、本気で思っています。

四〇五年前に来た子が「川に触れるの初めて」奇妙な表現をしました。そもそも「良い子は川で遊ばない」って看板があります。絶対に行ってはいけないんです。でも自然学校に来たら「はい、川で泳いで」って感じます。川だけじゃないです。火を見たことがない、岩に触ったことがない、そして土の道を歩いたことがない子がいるんです。自然に触れるチャンスがない。その子達はすごく便利な生活をしていて、失ったものに気が付きにくい。自然との乖離がすごいです。

大台町では幾度か豪雨災害があり、私も災害を憎み敵視する感情が沸きました。悔しい思いもしました。しかし地域のアマゴや山葵の養殖場を、一瞬にして流された方が「自然は凄い仕事をしていった」と言われました。みずから然るで自然と書くんですが、繰り返される災害や大きな自然現象の中で、私たちは助け合い生かされていることに気づきました。自然体験のなかで如何ともしがたいものに対して心の折り合いをつけてゆく、それが

地域民の優しさの源泉かと思えます。

次に主体的活動ですけども、ある時に秘密基地を作ろうということで山に行っただんです。一部の子が谷川に蛙を見つけて、そっちへ行っちゃったんです。その子たちも応援してあげたんですが、蛙が見たいから見に行っただけ、皆から離脱した個人的な活動で、主体的とは異なる自主的な活動になります。主体的と言うのは相手があつてのものなんです。何かひとつ合意形成しなければいけない時に、心の折り合いをつけながら、その場を作って行く。そういった練習をするっていう事こそ、ものすごく大事なことだと思うんです。相手を尊重する。そして尊重してもらえよう自分になる。

最後に個人主義の蔓延を排して、心の折り合いをつけていくなかで、精神性と宗教的文化を持つのは大事なことで、幸せな人生への一つの方法だと思います。

俳句に於ける経験とか共感が出来る部分が、どんどん先細りしてゆく可能性があります。だからこそ自然体験って大事だなと思いますし、此れからも自然学校が消滅する日まで頑張りたいと思います。

### 講師紹介

(社) 日本環境教育フォーラム自然学校指導者養成講座一期生。大杉谷自然学校とともに二十三年目。年を重ねてもドキドキワクワクは止まらない！大杉谷への想いも、益々深まっています。



# 第十九回現代俳句東海大会入選作品

令和五年十月二十九日(日)

## ◆大会賞

赤のままみんな遠くへ行つたきり

伊藤 政美

## 秀逸

母の待つ緑陰といふ駅のあり

前田 秀子

地藏盆きれいな色のもの並べ

平賀 節代

鉄路から戦の臭いする炎天

尾崎 竹詩

古代蓮雨を正しく捌きけり

山本 敏倅

真白な紙で鶴折る原爆忌

江口嘉代子

植田から濡れたる声のひびきおり

渡邊 淳子

火のつきし目刺叩きて敗戦日

犬飼 孝昌

麦を蒔く戦車がやってくる前に

小南千賀子

見詰めらるだけで白桃傷むなり

岡本 千尋

寂しくて巣箱の中を見てしまう

伊藤眞知子

教科書に載らざる歴史敗戦日

高尾田鶴子

夾竹桃咲いて焦土の匂ひかな

中尾 節子

ひと泳ぎして夕星を連れ帰る

星野 繭

産声を春の光りのなかに聴く

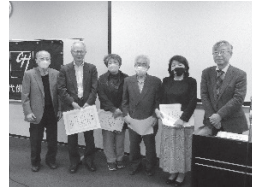
加藤由紀子

酔芙蓉こんなに笑ふ人なんだ

菊本としこ

捨てるものすつかり捨てて今朝の秋

石川美智子



## 佳作

夏林檎ふるさともうに他郷なる

中村 基子

死ぬ練習してゐるやうな昼寝かな

松永みよこ

賑やかに苦労話や盂蘭盆会

鬼頭 義和

水中花一人のために咲いて居る

田中 裕子

三度目はもう転がらず芋の露

小林 三保

はんだぎと言ふ名背負ひて動かさる

水岩 瞳

青葉騒いづもの自転車置いてある

佐藤 武子

シネマ出て小津安二郎的冬日

伊丹 余一

怪人のやうな病名大西日

政木 真紀

山の水引きて紺屋の青簾

角野 弘子

かなかなや同じ名字の並ぶ墓地

坂中 徳子

国生みの島てふ累々と玉葱

星野 繭

海のを空のを割るヨットの帆

村上 恭子

底紅や淋しき人に覗かるる

森本 昭子

蓮の実のいつでも飛べる軽さかな

森本 昭子

どの局も同じニュース熱帯夜

大堀 祐吉

ひまはりや風は海から吹いてくる

大堀 祐吉

わたくしの歩幅で向かふ花野かな

石川美智子

彼の手は母の形見や胡瓜揉み

石川美智子

胎内に虹の部屋あるあこや貝

渡邊 淳子

## 選者特選作品

後藤 昌治 選

曝書に耐へ戦後初版の文庫本

岡本 千尋

見詰めらるだけで白桃傷むなり

岡本 千尋

橋本 輝久 選

八月十五日遺影は今も二等兵

中尾 節子

永井江美子 選

長き夜や「とじる」ボタンを押せぬ僕

名古屋高校 佐々木太亮

見詰めらるだけで白桃傷むなり

岡本 千尋

武馬久仁裕 選

草いきれども背丈を越えてをり

宮田登世恵

大西 健司 選

火のつきし目刺叩きて敗戦日

犬飼 孝昌

父といふ静かな時間遠花火

ひらの浪子

小津 由実 選

がちやがちやで迷子出てます夏休み

滝澤 和枝

前野 砥水 選

秋涼しボニーテールの紐解いて

高橋 千典

福林 弘子 選

ひたすらに負ふ炎天を還りゆく

永井江美子

浅生圭佑子 選

麦を蒔く戦車がやってくる前に

小南千賀子

石川 裕子 選

月ほどに遠くなりけり生みしこと

多氣ひさか

石川美智子 選

沖縄の「おばあ涙」慰霊の日

松田 英子

稲葉 千尋 選

終戦日父は死ぬまで支那と言ひ

上村えつみ

大堀 祐吉 選

向日葵が垂れ死にさうな人がゐる

伊藤 政美

神田ひろみ 選

生くことに飽きてはをらぬ西瓜食む

宮田かつこ

成木 幸彦 選

シネマ出て小津安二郎的冬日

伊丹 余一

ひらの浪子 選

夾竹桃咲いて焦土の匂ひかな

中尾 節子

村山 恭子 選

船虫や此の世ざわさわわしてゐたる

加藤 美名

武藤 紀子 選

父と書けば大きな稲田見えてくる

前田 秀子

横地かをる 選

母の待つ緑陰といふ駅のあり

前田 秀子

今井 真子 選

満員の電車出てゆく敗戦日

武馬久仁裕

有本 仁政 選

星月夜最も小さき家借りて

松永みよこ

# 第二十五回 東海地区現代俳句賞

一般の部  
◆大賞

「西行忌」 度会さち子

クッキーの缶の天使や春の雷  
膝に置く野火の匂ひの方丈記  
蛇穴を出づ戦前とふ風の中  
陽炎を割つて玄室まで一人  
むつとりと男指さす心太  
Gパンを干す向日葵に並べ干す  
荒草匂ふ雨の晩夏の軍馬の碑  
八月や馬賊語りし叔父のこと  
うつくしく鮎食ふ人の喉仏  
香水おもし最終便のホーム  
月の真葛原ジレンマをもてあまし  
斎宮の衛士ぞ枯れても曼殊沙華  
鯛雲パイオルガン鳴る伽藍  
土砂降りの後の夕日や秋つばめ  
大学に隣るモスクや碓星  
影ふみの最後の一步虫すだく  
詩の一片陽の一片の烏瓜  
仏心のまたうすれゆく金木屋  
冬虹へ沖の空母が動き出す  
風に聴き火に水に書く西行忌

◆わたらいさちこ (昭和二十一年生まれ、  
岐阜県大垣市在住。『郭公』同人)

思いもかけない賞をいただき、うれしく思  
います。戦争や地震、益々複雑化する社会  
地球の明日が見えないような今に、さわつく  
心を少しは俳句に詠みたい。それには連作し  
かないと思ってきました。

奨励賞 (抄出十五句)

「姫女苑」 向井 泰子

立春やうすも色の水平線  
セロファンより桃の蕾の零れけり  
それぞれが良き花蔭に収まりぬ  
したたかに木を絡め取り山の藤  
荒草の中伸びやかに姫女苑  
紫陽花に似合ひし空の色のあり  
干し竿の残れる空家濃紫陽花  
豆腐屋のラッパ過ぎ行く夏柳  
ベゴニアの揺れずに風の過ぎて行く  
烏瓜たぐれば要らぬ物も付く  
鶏頭花ままならぬ身を励まして  
むせる父の背中の薄さ寒波来る  
膨らみの残る手袋落ちてをり  
冬川を動かさる石丸きかな  
片頬を温めてある冬日差

(むかいやすこ・「菜の花」)

佳作 (抄出十句)

「愚直」 竹内千賀子

嫌なこと避けて通れば地虫出づ  
蝸牛いつもの場所にある安堵  
夏椿けふのことだけ考へて  
孤独とは何にも染まぬ黒揚羽  
愚直にもぶつかればかり金亀子  
金亀子ぶつかりしこともう忘れ  
蟻の列小さきものをこつことと  
中心のぶれずに回る赤とんぼ  
どの風も順風ばかり花芒  
柿落葉踏めば明るき音のする  
(たけうちちかこ・「菜の花」)

佳作 (抄出十句)

「ふるさと春秋」 丸目 藤二

時空超えわがふる里のえびね蘭  
鹿児島へ流れゆくなり春の雲

久方の里への旅や梅真白

過疎すすむこの地に立ちて春惜しむ

長閑なり里の訛りも湯の宿も

どこからも水湧く地なり瓜きゅうり

ふるさとや水たつぷりと墓洗う

わが苗字かの地に多し秋うらら

若き日の母は土方や冬帽子

新春や私の頑固は薩摩の血

(まるめとうじ・「キラキラロータリー俳句同好会」)

五十歳以下の部

奨励賞 (抄出十三句)

「声の主」 後藤麻衣子

役名で呼び合う園児水温む

雛の家やつと一番の歌詞を聴く

手をあてて手当ての仕上げ花薺

薬剤室のテブラはきれい鳥雲に

自転車少年汗まみれの速度

病葉の落ちる速さよ登校日

海の家ティッシュでくるむ乳歯かな

クロールのいつも右から吸う空気

祝日や稲架に隠しておく湿度

弁当の橋の葡萄をつつと剥く

名月をゆつくり話す父と母

遠火事や修正液の海つつく

落雁の崖は崩れていて余寒

(ことうまいこ・「句具」『蒼海』)

奨励賞 (抄出十三句)

「愛情の色」 工藤 厚子

愛情の色は何色熱帯魚

かなしみの底に沈んで熱帯魚

しずけさの感触のあり青大将

カメレオン笑いこらえる夏真昼

錠剤を減らした朝の黒揚羽

てのひらのぬくみたしかめ蜥蜴の子

言いなりにならぬ女の夏帽子

信じると好きとは違う秋桜

今というこのひとときを秋の雨

この道を行くか帰るか曼殊沙華

夜行バスに揺れるわたしと檸檬の黄

沼のようなわれに洋画の秋の街

こすもすの女が語る夢その他

(くどうあつこ・「韻」)

奨励賞 (抄出十三句)

「いきもの」 菊山 千月

耳たぶはけものの形春の雪

羊水を言語の浮かぶ四月かな

ほうたるの鈍き碧やひそかな死

少年の羽化する祭太鼓かな

猫棄ててしたたかに夏再生す

待つだけの部屋を浮かぶや天使魚

妖精の乳房水着はワンピース

ビルの底びたり蜥蜴のうずくまる

肉体のすきま満たすやソーダ水

墓よりも内氣に兄の老いゆけり

逝く人の透きとおるまで草の絮

覚えある素秋を過ぎる男の背

強がつて生きて祈りの寒オリオン

(きくやまちづき・「韻」)

令和五年度東海俳句賞選考経過

事務局・平賀 節代

令和五年十一月九日(木) 名古屋駅前、

ウインクあいちに於いて「第二十五回東

海地区現代俳句賞」の選考委員会が開か

れた。選考委員は会長の委託した、橋

本輝久氏、伊藤政美氏、中村正幸氏、大

西健司氏、武馬久仁裕氏、神田ひろみ

氏、今井真子氏の七名と会長の八名。総

会後から応募を受け付ける。次世代の人



たちの励みにしたいと、今年度から五十歳以下の部門を設けた。締切りの十月十日までに五十歳以下の部に九編、一般に二十二編の作品が寄せられた。これらの作品を無記名でコピーし、選考委員へ郵送。予備選考を依頼し、一般は予選順位一位から七位を、五十歳以下の部は三位までを選んでもらった。そして一位七点、二位六点、三位五点と順に配点し集計した。

当日は七名の選考委員の参加を得、欠席の一名の事前に届いていた選考意見を参考に検討が進められた。五十歳以下の作品に対して賞を出すには未完成と、厳しい意見もあったが、賞を設けた意義に立ち返り、今後に期待するという事で賞を出すことを決めた。

作者を伏せてひとつずつの作品を、五十歳以下の部から厳正に審査。この部は三人が期せずして同点。これからの活躍を期待して三人を奨励賞とした。

その後、一般の部へと、活発に意見が出された。今年はずば抜けた作品が無く、僅差で四作品が並んだ。一位票を二人から得た作風の違う二作品と、選考の段階でこれ残すとした、二作品の四作品で、無記名での一位を表記する投票となる。結果一位票の多かった「西行忌」が対象に決まった。また、佳作にも少額でも賞金をだすことを決めた。

一般の部

大賞 「西行忌」 度会さち子  
奨励賞 「姫女苑」 向井 泰子  
佳作 「愚直」 竹内千賀子  
「ふるさと春秋」 丸目 藤二

五十歳以下の部

奨励賞 「声の主」 後藤麻衣子  
「愛情の色」 工藤 厚子  
「いきもの」 菊山 千月



俳句賞受賞者各位

選考委員からはでは次のような意見が出された。

視点の面白い作品もあった。きっちり書けていて破綻はないが、類相あり、新しさがない。ひらがななどの表記、ルビ、韻律の悪さなどが指摘される。タイトルも作品の一部であること。ひとつのテーマで二十句まとめた作品が三編あり、挑戦する姿勢は評価できるが、そのむつきさが話あわれた。

選考委員一位の作品

一般の部

永井江美子 「西行忌」 度会さち子  
橋本 輝久 体調不良で辞退  
伊藤 政美 「姫女苑」 向井 泰子  
中村 正幸 「姫女苑」 向井 泰子  
大西 健司 「花魁」 鶴飼 春恵  
武馬久仁裕 「本籍地」 有本 仁政  
神田ひろみ 「西行忌」 度会さち子  
今井 真子 「滝」 村山 恭子

五十歳以下の部

永井江美子 「気まぐれな音階」 堀内なづき  
橋本 輝久 「いきもの」 菊山 千月  
伊藤 政美 「声の主」 後藤麻衣子

東海地区現代俳句協会

第二十八回新年俳句大会受賞作品

令和六年二月十八日(日) 於ける名古屋駅前ウインクあいち

会長賞

門松を褒めて入りぬ理髪店

大堀 祐吉

秀逸賞

おでん酒つかみどころのない人と

海野さちこ

数え日や引き出しに紐食み出して

中尾 節子

枯れてゆくみな暖かき色をもち

村田佐和子

優秀賞

涼新た 一気に奔る裁ち鋏

大西 誠一

小春日や杖に残れる母の癖

加藤由紀子

始発には春の匂ひが乗ってくる

山内 基成

佳作

松葉には松葉の香あり漱石忌 武藤 紀子  
林檎手にわたしたち入籍します 稲葉 千尋

草の絮飛ぶ対岸は遠い過去 岡本 千尋  
縫ひ針に通す灯も一葉忌 上嶋 艶  
奔放に咲き冬菊になつてゆく 平賀 節代  
大切な人だけになる年賀状 笠井かず枝

中村 正幸 「愛情の色」 工藤 厚子  
大西 健司 「愛情の色」 工藤 厚子  
武馬久仁裕 「愛情の色」 該当なし  
神田ひろみ 「声の主」 後藤麻衣子  
今井 真子 「鏡のごとし」 岸 快晴



会長賞&秀逸賞各位

わがままな小指 狐火が好きという

菊山 紗英

犬に肉食はせ狩猟解禁日 富田志津子

小津 由実

トラランペット吹きに来てゐる枯野かな

岩田 典子

ゆつくりと毀れゆく星返り花

与語 孝子

寒菊を折る手ゆつくり老いてゆく

選者特選作品 伊藤 政美 選

犬に肉食はせ狩猟解禁日 富田志津子

永井江美子 選	宮田登世恵
傷む手にけふ一枚の賀状書く	
中村 正幸 選	
ファイティングホーズひとりで大旦	
武馬久仁裕 選	多氣ひさか
音消して火事場離れる消防車	
久保 和枝	
大西 健司 選	
門松を褒めて入りぬ理髪店	大堀 祐吉
平賀 節代 選	
二人しか知らぬ約束竜の玉	坂中 徳子
前野 砥水 選	
刃を入れて柚子の命を湯に満たす	
長町 誠司	
小津 由実 選	
初鏡きのふの傷をたしかむる	松永みよこ
福林 弘子 選	
いまここに正しく立てり裸木は	永井江美子
石川美智子 選	
ただただ白く私のぬない初景色	橋本 輝久
石川 裕子 選	
縫ひ針に通す灯も一葉忌	上嶋 艶
稲葉 千尋 選	
年賀状丸き赤子の這い出して	石川美智子
大堀 祐吉 選	
どんど焚く火の忿怒とも歡喜とも	海野さちこ
神田ひろみ 選	
松葉には松葉の香あり漱石忌	武藤 紀子
成木 幸彦 選	
藍深む木曾の流れや初山河	宮地 繁誠

ひらの浪子 選

ゆつくりと毀れゆく星返り花

武藤 紀子 選

門松を褒めて入りぬ理髪店

村山 恭子 選

奔放に咲き冬菊になつてゆく

横地かをる 選

始発には春の匂ひが乗ってくる

今井 真子 選

よく笑う肩が担ぎし破魔矢かな

岩田 典子

大堀 祐吉

平賀 節代

山内 基成

細川 敦子



令和六年の新年俳句大会は、全国支部最多四十名の新規会員と、四百二十句の応募を受け盛大に開催された。

また、四年振りの懇親会にてはアルコーも進み、二、三大会へと繰り出したメンバーも見られた。



◆愛知県

むじやきにわらおうかじかんだ足の指よ  
指きりのゆびのつめたい雪女

名古屋市中区 朴 美代子

納骨も朱鷺を見たのも雪の中  
柚子二十個買ってしまった寺の市

田原市 杉山 克代

あめんぼう陣取る如く水面かな  
啓蟄や土竜の穴の後始末

西尾市 石川 道子

春の雪だから許さう君の嘘  
鈍行の揺れに慣れきて春眠し

名古屋市中区 丹羽 知子

投句未着者

瀬戸市 三宅 昭久

稲沢市 杉山 一川

◆岐阜県

かばん置き花菜へ駆けし昭和かな  
どんど爆ぜ紅蓮の炎立ち昇る

揖斐郡 北野 武志

◆三重県

陶工と轆轤の阿咩冬うらら  
採血に腕だけ貸しておく冬日

津市 海野さちこ

潮干狩りバケツの水の漏れてをり  
着岸の手渡しで買ふ初鯉

度会郡 加藤 美名

食卓に寒卵あり余震ある  
全身がたしかな眼夜の海鼠

松阪市 林 和琴

日脚伸ぶ本屋に杖を忘れかけ  
道端の標となりぬ緋木瓜かな

四日市市 栗田 道弥

◆愛知県

立ち止まる岐路文旦の香り嗅ぐ  
散り散りの割れた空瓶触れる雪

犬山市 紅紫あやめ

幼子の見え隠れする若葉風  
存えて今日の終わりの花だより

豊田市 甲斐由美子

源平の名残の椿咲き競ふ  
雪解の堰切る水の音清し

西尾市 石川 幸己

裸木となれど風格大いちょう  
轉りを聞き逃さじともの影

西尾市 鳥居 厚子

松葉杖つく子にそつと春の風  
てのひらに受ける雨粒春立てり

西尾市 稲垣 嘉子

しみじみと指に初雪感じおり  
風荒ぶ伊良湖への道野水仙

西尾市 味岡美也子

十七回忌亡母の椿の淡きピンク  
二月尽復興の槌音余震続く

名古屋市中区 長谷川 和

まずまずの人生消費春炬燵  
あたたかに地下鉄駅の手摺棒

春日井市 神野祐紀雄

白梅にまたかなしくもなき涙  
戻り来よ君よ春思の深きより

名古屋市中区 井上志津子

芹摘むや鮎沢川に足浸し  
春疾風一瞬浮遊したやうな

名古屋市中区 佐々木和子

※六頁へ続く

尚、氏名は投句葉書記載に倣う

冴え返るG線上のアリアかな  
啓蟄や百号の絵に挑戦す

丹羽郡

吉永 初恵

投句未着者

名古屋市中区

平崎 葉

名古屋市中区

具嶋宗一郎

名古屋市中区

松本 悠希

西尾市

糟谷 春美

名古屋市中区

堀内 晴斗

刈谷市

釋 行信

◆三重県

夕焼け濃しと太平洋上よりメール

冬菫嬉しきことをのみ数ふ

伊勢市

多氣ひさか

投句未着者

伊勢市

内山 勝之

伊勢市

田岡やす美

度会郡

西山 幾代

度会郡

西田 順子

津市

松宮 さと

桑名市

方緒 舞

※永年会員及び新規会員の俳句掲載欄には必ず掲載されますので、投稿の失念無きようお願いいたします。尚、掲載は投句到着順、未着者は氏名のみ掲載した。



新旧会長近影  
☆新会長挨拶は6月の  
会報に掲載予定です

### ■橋を架ける「お礼の言葉」

永井江美子

人の夢と書いて儂いという字になる。人の命の儂さを言い得て妙である。そんな儂い人生の半分以上を俳句という文芸に関わってきたことは、夢とも思える喜びの時間であった。

振り返ってみれば、私が前任から東海地区事務局長を引き継いだのは四半世紀も前のこと。その後あれよあれよと思う間に、伊藤政美氏の後の地区会長に就くこととなってしまった。今まで地区協に係わってきたけれども運営が出来るかどうか、甚だ不安なスタートであった。特にこのところの会員減少は緊急の課題であった。

毎年退会者は入会者を上回り、三年前には五千人を切ってしまったのだ。このまま放置すれば十数年後には自然消滅してしまうかもしれないという危機感に、会員増強委員会なるものが発足し、地区協挙げての会員増強は悲願となった。

東奔西走の日々ではあったが、幸いなことに東海地区では会員増となり現在に至っている。それもこれも会員の皆様の俳句愛によるお力添えの賜物で、戴いた熱量は地区の宝である。

現代俳句協会も一般社団法人という法人格を持つ団体となり、新たな幕開けの年となった。この記念の年、新会長として大西健司氏に引き継いで頂けることは大変有難く、心強い船出である。今までのご厚情に感謝申し上げます。

### 第十八回鈴木しづ子顕彰会

小中高生いのちの俳句大会  
全国大学生俳句選手権大会

### ■小中高生いのちの俳句大会表彰式

日時 9月21日(土) 午後1時より  
会場 大山市民文化会館・大ホール  
規定用紙又は原稿用紙  
応募 俳句三句、氏名、住所、電話  
学校又は結社名、出席可否記載  
未発表作、類似二重投句は取消  
5月1日～7月20日迄送付

表彰 期のちの俳句大賞、大山市長賞  
大山市関連外各種、中日新聞社  
東海現代俳句協会賞、他多数  
東海現代俳句協会会長、他役員  
送付 〒484-0894

選者 大山市大字羽黒字二日町57番  
鈴木しづ子顕彰会事務局  
宮地 瑛子 宛  
〒484-0894

TEL 0568-67-0325

### ■第七回全国大学生俳句選手権大会

日時 9月21日(土) 午後2時5分  
会場 大山市民文化会館・入場無料  
4月12日～7月19日迄送付  
兼題 「家族」又は自由題  
問合せ 〒460-0002

名古屋市中区丸の内3-16-29 4階  
全国大学生俳句選手権大会事務局  
TEL 052-951-3852  
FAX 052-962-3256  
メール obo@daigakuinai.ku.com



ライブ配信あり



### 令和五年度ジャズ句会報告

昨年度ジャズ句会では十一月十一日、納屋橋のカフェで開催された。なつはづき氏も参加されるなか三十余名の発句が、プロのジャズ奏者によって即興で演奏された。なつはづき氏は反戦を込め、JRの人身事故に遭遇し遅れた永井会長は、事故の状況を即興で詠った。皆さん演奏者泣かせですが楽しい時間を共有した。淋しいチエコ語十一月の森に入る はづき 冬天へ舞うとき人は華となり 江美子



### 句具主催「看板俳句」紹介

岐阜の柳ヶ瀬商店街で、「看板俳句」と題した吟行句会が、後藤麻衣子氏の句具により、令和五年十二月九日に開催された。作句のレクチャーがあったのち、商店街に溢れる言葉を題材として句会が開催された。二十名程が参集したリアル句会だが、ラインを併用したスムーズな進行は、俳句の裾野を広げるのに寄与している。年八回のネット句会と、随時実施のリアル句会を左記から検索されたい。

<https://note.com/kugu>

スナックに亡き祖母の名よ雪月夜 麻衣子  
ティダティダの黒糖の香にある夕焼 雷紋



その他	区分	令和六年度事業報告	場所	内容
令和六年度新会員	随時募集	岡田勉、笠井保志 松本清美 正木羽後子 三重 島田悦子	ウイंक あいち	当日催目二句 参加費無料 会員外も参加可（新しい人を誘いこれを機に入会を勧めよう） 品川から数えて三十七番目の宿場として整備された藤川宿は、芭蕉が「ここも三河もむらさき麦のかきつばたと詠んだ如く、吟行会会当日はむらさき麦祭りも開催されます。詳細は八頁記載
令和六年度総会及び 第二十九回 新年俳句大会	9月21日(出) PM1:00～PM2:00～5:00	犬山市民文化会館 名鉄小牧線「羽黒」下車	未定	吟行は名古屋市内大須界隈を巡ります 恒例ジャズ句会・飲み物代など必要定員四十名 オンライン句会 六月一日/九月二十八日 詳細は青年部長松永みよこまで、現在青年部員三十七人（詳細は本誌八頁） 詳しくは有本仁政着年部長まで（詳細は本誌八頁）
青年部 吟行句会 第七回ジャズ句会 オンライン句会	12月12日(休) AM11:00 PM4:00	ウイंक あいち	未定	賞金として俳句賞には三万円、奨励賞に一万円、佳作二十円進呈。ふるって応募して下さい。
俳句賞選考委員会 および理事会	募集期間 総会終了後～11月1日迄	会員諸氏の応募ををう 五十歳以下の部あり	未定	未発表二十句・題をつけ事務局まで郵送 参加費無し・現代俳句協会員に限る 住所〒467-10004 名古屋瑞穂区松月町1-11-209 松永充裕方/東海地区現代俳句協会 TEL 0901476714684 メール fmatsumae@yahoo.co.jp
東海地区現代俳句賞 第二十六回	11月17日(日) PM1:00～PM4:30 PM5:00～懇親会	ウイंकあいち 懇親会場所未定	未定	事前投句 二句一〇〇円 六月投句用紙送付 締切九月末日 何句でも応募可※会員外も参加可周りに人に勧めて下さい。高校生にも引き続き呼びかける。 講演講師 北村純一（伊賀在住芭蕉研究者・会員）
現代俳句東海大会 第二十回	5月19日(日) AM9:30～PM4:00	愛知担当 岡崎市東部地域交流センター/むらさきかん（名鉄藤川駅・徒歩1分）	未定	当日催目二句 参加費無料 会員外も参加可（新しい人を誘いこれを機に入会を勧めよう） 品川から数えて三十七番目の宿場として整備された藤川宿は、芭蕉が「ここも三河もむらさき麦のかきつばたと詠んだ如く、吟行会会当日はむらさき麦祭りも開催されます。詳細は八頁記載
その他	会報発行三・六月	理事会 随時（必要に応じて）	未定	総会一時十五分～二時 新年俳句大会一時十五分～四時四十分 事前投句二句会員のみの投句無料

令和6年度会計予算（案） & 5年度会計決算報告書

東海地区現代俳句協会  
令和6年2月18日  
(単位：円)

令和6年度会計予算（案）

令和5年度会計決算報告書

収入			支出		
費目	金額	摘要	費目	金額	摘要
前年度繰越金	63,591		事業費		
助成金	550,000		東海俳句賞	130,000	賞金・選考委員謝礼、交通費等
特別会計より	300,000		吟行句会	70,000	会場費
維持会員費	2,000		会報発行	250,000	賞品代、諸経費
			総会・新年俳句	100,000	会報印刷、発送費等
			理事会	50,000	賞品等
			事務局関係費	250,000	交通費、その他諸経費
			専従者年間分通信費、会場費、印刷諸経費等		
			雑費	5,000	振込手数料等
			予備費	60,591	
収入合計	915,591		支出合計	915,591	

【収入の部】				(単位：円)	
項目	予算	実績	増減額	摘要	
助成金	550,000	610,400	60,400		
雑収入	0	2	2	預金利息	
前年度繰越	79,314	79,314	0		
特別会計入金	300,000	300,000	0		
維持会員費	0	10,000	10,000		
合計	929,314	999,716	70,402		
【支出の部】				(単位：円)	
項目	予算	実績	増減額	摘要	
東海俳句賞	110,000	114,000	4,000	賞金・選考委員謝礼、振込代等	
吟行句会	90,000	70,594	▲19,406	名古屋7月、7月、7月9日印刷代、送料、通信費等	
会報発行	190,000	255,016	65,016	前年俳句大会賞品代	
総会・新年俳句	130,000	70,000	▲60,000	交通費、飲料代等	
理事会	65,000	42,332	▲22,668	通信費等	
事務局諸経費	250,000	310,000	60,000	通信費等	
雑費	3,000	4,183	1,183	振込手数料、封筒等	
助成金返金	0	70,000	70,000		
予備費	91,314	0	▲91,314		
合計	929,314	936,125	6,811		

収入999,716－支出936,125＝差引次年度繰越金63,591円

上記の決算報告書は適正に処理されている事を認める

令和 6 年 / 月 / 日  
会計監査 今井真子 (印)

初夏のむらさき麦吟行句会

おいでん藤川宿

日時 令和6年5月19日(日)

9時半〜16時(雨天決行)

場所 藤川駅近辺(紫麦畑とお祭りに芭蕉句碑や藤川宿跡を自由散策)  
岡崎市藤川町「むらさきかん」  
名鉄藤川駅北すぐ

TEL 0564-48-3066

□受付 9時半より

□投句締切 12時(時間厳守)

当日囁目句2句

□昼食終了後12時45分開始

昼食 藤川駅北西すぐ「道の駅」他

休息は道の駅ほか、お好みのお店  
でお済ませください。

交通 名鉄東岡崎にて豊橋方面行きの

各駅停車に乗換3駅10分



※申し込みは準備の都合上四月末迄に  
左記へ連絡をお願いします。

(会員以外も歓迎 参加費無料)

事務局 松末充裕

TEL 090-4792-4984

メール mmatsusue@yahoo.co.jp

TEL 467-0004

名古屋瑞穂区松月町1-11-209

第二十六回東海地区現代俳句賞募る

現代俳句界に新風を吹き込み、東海地

区俳句活動の進展と充実を図るため、左  
の要領で作品を募集します。

応募作品 雑誌二十句(未発表に限る。受

付後の作品変更は不可)

○B4縦書(紙サイズ厳守)

四〇〇字詰原稿用紙二枚使用

○一枚目「題名」「郵便番号・住所・

電話番号・俳号(氏名)」

二行置きに記載

○二枚目 一行目から作品を並記し、

二十行目までに二十句収める。

※応募原稿は返却しない。

応募資格 東海地区現代俳句協会員

応募料 なし

締め切り 令和六年十一月一日(金)

(当日消印有効)

送稿先 TEL 467-0004 名古屋瑞穂区松月町1-11-209

松末充裕 方

東海地区現代俳句協会事務局宛

「東海地区現代俳句賞」朱記のこと

TEL 090-4792-4684

メール mmatsusue@yahoo.co.jp

年代別選考の為、応募用紙に年

齢と仮名遣いを忘れずに。

・東海地区現代俳句大賞一名

賞状および賞金三万円

・奨励賞・佳作 若干名

賞状／副賞一〇、二万円

※定例総会席上にて授賞式

顕彰後発行する会報紙上

会長が委嘱する地区役員

入賞発表

選考委員

青年部 & 蒼年部活動のご案内

※大須ごった煮吟行会

今回の吟行地「大須」は、名古屋まちな  
かのにぎわいスポットです。

見どころ／大須観音・観音像の他に芭蕉句  
碑や扇塚、人形塚、歯歯塚、宗春のからく  
り人形など見どころ満載です。

日時 六月十五日(土) 十二〜十五時迄

投句締切十二時十五分

会場 名古屋中区会議室シスグリーン

地下鉄名城線・鶴舞線上前津駅

六番出口より徒歩一分

会費 無料

申込 東海地区現代俳句協会

青年部長 松永みよこ

メール tokai.genhai.seinenbu@gmail.com

TEL 090-4549-9583

青年部と蒼年部では、土曜日の午後「つ

ばめ句会」を開いています。協会員以外の

方もお気軽にお越しください。

日程 四月二十日／七月十三日

会費 無料

時間 十三〜十六時半終了予定

場所 名古屋鶴舞公会堂ほか

詳細はお問合せ下さい。

持参 三句(短冊に記入) 当季雑誌

短冊の大きさ 4×20cm程度

問合せ 東海地区現代俳句協会

蒼年部長 有本仁政

メール hitomasa@nd.biglobe.ne.jp

TEL 090-4850-0264

◆計報

白井米子(愛知県 令和五年七月

村上 豪(三重県 令和五年七月

東海地区現代俳句協会役員一覧

名誉顧問 後藤 昌治

顧問 橋本 輝久 伊藤 政美

会長 中村 正幸

副会長 大西 健司

武藤 紀子(愛知担当)

武馬久仁裕(岐阜担当)

平賀 節代(三重担当)

事務局長 松末 充裕

経理部長 小津 由実

広報部長 前野 砥水

青年部長 松永みよこ

蒼年部長 有本 仁政

会計監査 今井 真子

理事 ひらの浪子 横地かをる

福林 弘子 中村 誠一

村山 恭子 大西 誠一

長町 誠司 八木茂都子

森本 昭子

顧問 伊藤 政美

副会長 永井江美子

武馬久仁裕 大西 健司

平賀 節代 小津 由実

武藤 紀子 福林 弘子

有本 仁政 松末 充裕

東海地区現代俳句協会会報 第八十号

令和六年三月三十一日発行

発行者 大西 健司

編集 前野 砥水

印刷 ヨサ美印刷

事務局 松末 充裕

名古屋市中村区猪之越町三一一五

名古屋瑞穂区松月町一十一二〇九